

令和元年度

中学生の広島市平和記念式典への派遣事業感想文集



藤 枝 市

令和元年度 広島市平和記念式典派遣中学生

No.	学校名	氏名
1	瀬戸谷中学校	麓 美月(ふもと みづき)
2	葉梨中学校	杉山 優那(すぎやま ゆな)
3	広幡中学校	小柳津 美帆(おやいづ みほ)
4	西益津中学校	梅原 優紀(うめはら ゆうき)
5	藤枝中学校	大木 梨央(おおき りお)
6	青島中学校	鈴木 柑夏(すずき かな)
7	青島北中学校	深井 晃(ふかい あきら)
8	高洲中学校	河津 琴音(かわつ ことね)
9	大洲中学校	熊田 朱華(くまだ あやか)
10	岡部中学校	山田 志蔭(やまだ こころ)

私は平和記念式典に参加したり原爆資料館を見学したりしたことで、今まで以上に戦争の恐ろしさを知りました。まず、私は原爆ドームや広島平和記念資料館へ行き原子爆弾はどれだけすごい威力だったのか、原子爆弾によってどんな被害が起こったのかということ学びました。

私は、戦争や原子爆弾によってもっと長く生きることができたはずの命が失われたり、平和にすごせたはずの日々がたくさん奪われたりしたということが分かりました。もう戦争は起こしてはいけないという思いがさらに強くなりました。そして、広島の人たちは平和式典などを通してあの日のことをこれからもたくさんの人に伝え、戦争や原爆によって起こされる悲劇を二度と起こさないように活動していました。私たちも今の日本のような戦争のない平和な日々がこれからも続くように同じ過ちをくり返さないことが大事だと思います。そのためにまずは、戦争を知らない世代の私たちが戦争について知らなければならないと思いました。そして戦争について知った上で、みんなで平和について真剣に考え、未来の平和に貢献できるようにしたいです。

もし、私たちの大好きな藤枝の町が、地獄のような町になったら、と考えたことがありますか。あの日、1945年8月6日から、広島の人たちの目には大好きな広島の町の地獄のような光景が飛び込んできたのです。そして、たくさんの亡骸なきがらを目にしたのです。あの日から、被爆者は増え続け、大切な人を失った人が増え続けています。

被爆者は語り、訴えたそうです。

「戦争は忘れることのできない特別なもの」だと。そして、「私たちのこの苦痛は、もう私たちだけでよい。」と。

私たちは二度と戦争をおこさない未来にするために、守らなければいけません。周りの人、日本という国、そして世界を。

私たちは唯一の戦争被爆国として、被爆者の思いを知ることができます。世界へこの思いを伝えることができます。

そして、核兵器のない世界、これからの世界の平和に向けて、世界の人々と手を取り合い助け合うことができると思います。被爆者の思いを無駄にしないためにも、被爆者の思いと、私たちの平和への思いを世界の平和のために繋げていきたいといます。そして、平和な世界の為に、動いていきたいといます。

今年終戦から74年が経ちました。74年前、今の私たちには想像できない事が起こりました。昭和20年8月、日本に2つの原子爆弾が投下されました。8月6日、広島。8月9日、長崎。この原爆によって約20万人の大切な命が一瞬で奪われてしまいました。家族、友人を失い住む家もなくなり…考えただけでも脳裏に恐ろしい光景が浮かびます。原爆ドームを見た時、私の想像以上の事が起こりこれが現実にあった事なのだと胸がつまりました。戦争が終わった今でも被爆によって苦しんでいる人達がいらっしゃいます。戦争では幸せは得られません。だからこの悲惨な過去は絶対に忘れてはいけません。

これから生きていく私たちが二度と戦争を起こさない未来にする為に74年前にあった現実を語りついでいかなければなりません。私たちにできる小さな思いやりから、世界の平和につながると信じていきたいです。

8月6日、私は原爆の恐ろしさを改めて思い知りました。自分なりに原爆の事は分かっているつもりでしたが、自分がいかに原爆、戦争について無知だったかを知り、情けなくなりました。原爆資料館では、被爆された方の写真、遺品、資料などが展示されていました。被爆する前と後の人生の歩みなど詳しい説明を読むと、原爆が落ちる、その時まで「生きていたという証」が確かにありました。たった一発の原爆で一人一人の人生が大きく変わってしまった事を思うと、胸が痛み、言葉も出なく、苦しくなりました。

被爆者の方は今もなお、心の苦しみ、病気との戦いの中で、不安が消えることはありません。そして、戦争はまだ終わっていません。なぜなら、世界に核兵器が存在しているからです。被爆された方の高齢化、減少により、全国の被爆者数は、15万人を切ったと発表されました。体験をした人が減少してきている今だからこそ、「核廃絶」を私達次世代が後世へとつなぎ、訴え続けなければなりません。非核平和都市の一員として、この広島市平和記念式典派遣事業に携わったことは大変貴重な経験となりました。この体験を生かし、これからも継承していきたいです。日本だけでなく、全世界の人々へ伝えるために…

「安らかに眠って下さい、過ちは繰り返しませんから。」

私が平和記念式典で感じたことは、二度とあのような戦争をくり返してはいけないということです。私は広島原爆について詳しくは知りませんでした。ですが、この体験を通して私は原爆がどれほどの人々の命や未来を奪ったのかを深く知ることができました。

まず私が思ったのは、式典に出席している外国人の数が多いいということです。それほど広島での出来事が世界に影響をあたえているんだなと、あらためて感じました。また、被爆して亡くなった方が30万人以上もいると知り驚きがかくせませんでした。それを聞いた時、ふと資料館でみた「たましいの叫び」というコーナーを思い出しました。そこには、ボロボロになった服、家族への手紙などが展示されていました。私はそれらが、「助けて」「苦しいよ」と言っている気がして、胸が苦しくなりました。私には戦争を止める力はありません。でも、この経験を伝え広めることで平和への一歩が踏み出せると思います。

8月6日。私の誕生日です。しかし、74年前のこの日、多くの命が一瞬にして奪われました。そのことを知り、私は、より広島で起きたことを知りたいと思うようになりました。今まで漠然<sup>ぼくぜん</sup>と感じていた、原爆、戦争の怖さを、今回の事業に参加し、鮮明に記憶に残すことが出来ました。1945年8月6日、広島に原爆が投下されました。この原爆は、長さ3メートル、重さ4トンで、原爆ドームの上空600メートルで爆発しました。たった一つの塊<sup>かたまり</sup>が14万人もの命を無差別に奪ったのです。私は黒く焦げた原爆ドームと、資料館に展示された被爆者のボロボロの服、皮膚<sup>ひふ</sup>がはがれ、目の位置さえも分からない被爆者の写真を見て、あまりの悲惨さに胸が苦しくなり、涙があふれてきそうでした。ですが、広島で起こった事実をしっかりと知るためにここに来たので、目をそらさずに見ました。悲惨さを感じながら歩いていた時、次に私の目に入ったのは、折りづるで作られた「平和」や「P E A C E (ピース)」という文字でした。平和を願いながら作られたと思うと、心が温かくなりました。今、私に出来ること、それは、この2日間、広島で学び、感じたこと、戦争の恐ろしさや原爆の悲惨さを伝えるということです。そして、今の生活が、どんなに幸せか、一人一人の命が、どれだけ尊いかということに、気付いてほしいと思います。貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。

溶けたガラス、曲がった鉄、破れて血のついた衣服……原爆資料館で見たものは、原爆の威力を知るには十分だった。

原爆が恐ろしいのは、爆弾にやられるだけでなく、放射能による後遺症に苦しむ人が今もいるということだ。黒く伸びたつめ、ケロイドによってひどくただれた背中。見ていて痛々しいものばかりだった。

平和記念式典で合唱した「ひろしま平和の歌」が広島駅のホームで流れているのを聞いた。この歌は「広島市を世界平和の原点にしよう」という願いから作られたそうだ。

式典では、90を超える国の人々が参列していた。世界へ、原爆の悲惨さを発信し続けていくことが私たちの義務だ。

日本人はもちろん、世界の人々へ。ぜひ一度、広島を訪れてほしい。人類が再び同じ過ちを繰り返さないためにも。

「お母さん！お母さん！そう叫ぶ子供」、平和記念資料館でこのフレーズを見たときに、すごく悲しく、そしてとても怖いと思いました。なぜなら、目の前で家族が悲惨な姿になり、幼い子供が泣き叫ぶ様子が頭の中に思い浮かんだからです。戦争の悲惨さや原爆の恐ろしさは学校の授業や家族の話から聞いていましたが、細かいところまでは理解できていませんでした。今回被爆地を訪れて実際どうだったのかということをお自分の目で確かめることができました。焼けてしまって男女の区別がつかない、髪が抜ける、家族に会えない、がんにかかる人が多くなる、そしてなによりも1個の原子爆弾で20万人以上の人々の命が奪われるということに衝撃を受けました。

資料館を出ると、たくさんの緑、たくさんの人々の笑顔、今の日本は幸せだと実感しました。

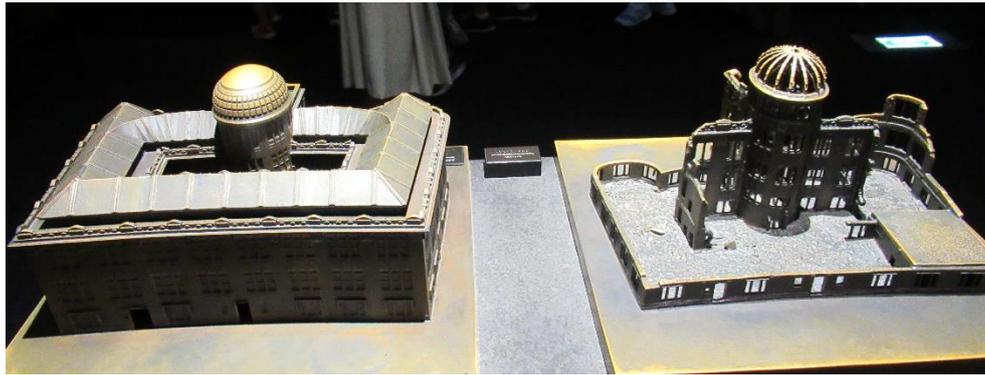
愛する家族を失うのは嫌、友達を失うのも嫌、もう二度とあのような悲惨な戦争がくり返されてはいけないと強く感じました。

この地球が、平和で笑顔であふれる世界になるために、今回学んだことを多くの人に伝えられることができるよう、更に学んでいきたいと思えます。

私は、初めて広島を訪れて、改めて原爆と戦争の恐ろしさを知らされました。原爆資料館で見た、目玉が飛び出たり顔の皮フが垂れ下がった血だらけの人の写真は、まさに地獄絵図でした。他にも、大量に積み上がった遺骨の写真や破れて穴の空いたボロボロの服は、見た瞬間に思わず目を背けてしまうほどひどく、今までの私は原爆の恐ろしさを全く知らなかったと痛感しました。大和ミュージアムでは、戦艦大和の模型や資料を見て、当時の日本の技術の高さに驚きましたが、それ以上に多くの人達が戦争の犠牲になった事を知り、現在の日本は、過去の多くの命のおかげで成り立っている事を実感しました。

私は、今回の広島派遣で、核兵器の使用や戦争は、どのような理由があっても許されないと強く感じました。将来、世界中から核兵器と戦争を無くし、世界中が平和で希望ある未来となるよう、自分に何ができるか考えるきっかけとなる貴重な体験となりました。

今回、僕は初めて広島を訪れました。原爆ドームや資料館で、当時の広島の姿や核の恐ろしい威力を見ました。戦争を知らない僕にはショックでした。たった一つの爆弾で一瞬にして命を奪われた人々、生きのびても後遺症に悩まされ続けた人々、大切な家族を失った人々。その辛さを想像すると、胸が苦しくなります。また、あの悲惨な戦争を経て手に入れた今の平和は、たゆまぬ努力なしには維持できないという事も知りました。戦争には被害だけでなく加害もあるという事も忘れてはいけません。僕はそのどちらも望みません。だから、未来を作る僕たちが、まず身近な平和を大切にすることから始めたい。他者を知り、違いを受け入れ、助け合い、仲良くする。国はまだ核兵器禁止条約に署名しませんが、人々の心の中の平和は、今すぐ始められるはずです。戦争や核のない平和な世界にしていくために、今回学んだことを皆に伝え、僕にできる努力を続けていきたいと思います。



原爆ドームの模型



平和記念資料館にて

令和元年度中学生の広島市平和記念式典への派遣事業感想文集

8月15日 追悼式典で朗読

発行：令和元年8月

静岡県藤枝市岡出山1丁目11-1

藤枝市総務部総務課